

口永良部島火山ガス組成

火山ガス $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比は 2014 年 12 月以降低下し、2016 年 1 月には噴火以前の $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比 =3 前後に戻った。

2011 年以前は $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比 =3、 CO_2/SO_2 比 =1 前後であった。

2014 年 8 月の噴火後の 2014 年 12 月には $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比 =10 と高い値を示した。それ以降低下し、2016 年 1 月には 2011 年以前の 3 前後の値に戻った。2015 年の噴火に対応する変化は特にみられない。

$\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比の低下は、脱ガス圧力の増加、出口温度の低下もしくは熱水系の発達が原因の可能性はあるが、そのいずれであるかの特定は困難である。

CO_2/SO_2 比は 2009 年から 2015 年まで 1 前後と大きな変化は見られていない (2015 年 7 月の CO_2/SO_2 比 =1.6 は誤差が大きく、有意な変化とは見なせない)

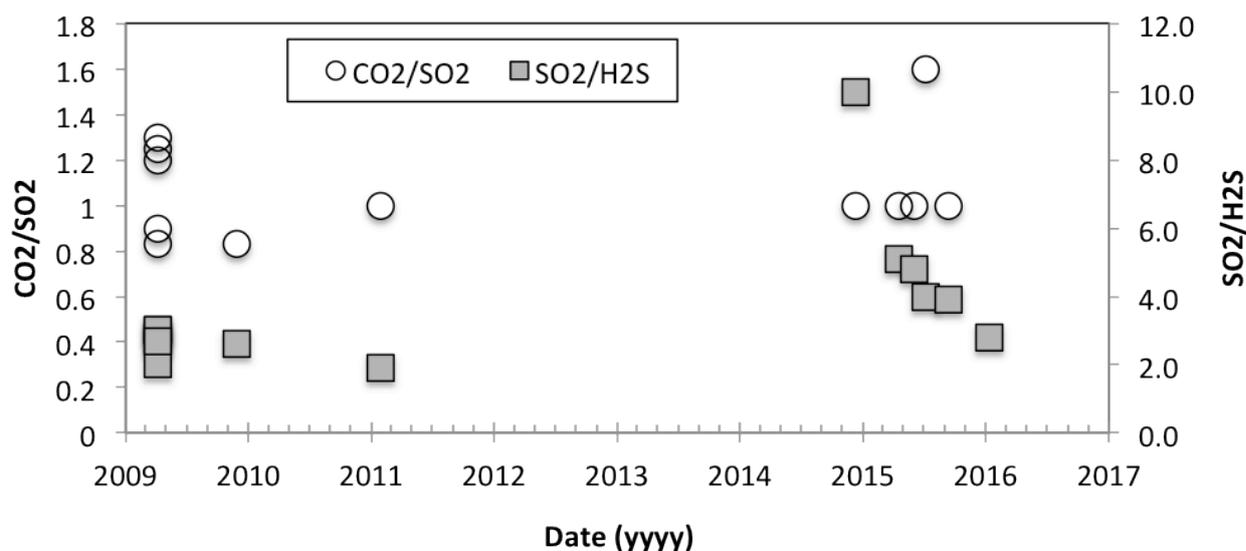


図 火山ガス CO_2/SO_2 比および $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比の変化。